



▲今年8月と10月に行われた土壌診断調査。東京農業大学と連携し、土の硬さやねばり、成分などを調査する

土の健康診断 富良野ブランドの土台に

ふらの土の会 (全国土の会富良野支部)

富 良野ブランドを支える農業生産者の地道な取り組みがあります。それは、作物に適した土づくりを行うふらの土の会（杉村鉄也会長）の取り組み。主な活動は、土の成分などを調べる土壌診断調査や、新しい肥料の試験などで、調査研究を東京農業大学が行い、その調査結果にもとづいて、各農家が肥料の調整など作物に適した土づくりを実践しています。年に



▲年に一度行われる土壌診断調査報告会。別名、「土壌裁判」とも呼ばれ、結果を待つ会員はドキドキ。

一度行われる土壌診断調査の報告会では、大学から助言をもらいながら、会員同士が評価し合い、土づくりの技術の底上げを図っています。杉村会長は、「土の成分を知ることで、余計な肥料を使わなくなりました。良い土づくりと、コストの削減につながっています」と活動の成果を話します。東京農業大学が事務局を務める「全国土の会」の取り組みは、全国20カ所で行われており、北海道では富良野だけ。15年前に、山部のメロン農家20戸ほどで「山部土の会」を発足し、やがて活動が山部地域外にも広がってきたことから、3

年前に名称を「ふらの土の会」に改称。現在は、上富良野・中富良野の農家も加わり、62戸にまで拡大しました。また、賛助会員として農業資材メーカーも加入しており、産学が連携し、質の高い土づくりをめざしています。

会の発足をサポートした全国土の会の会長で、東京農業大学教授の後藤逸男さんは、「十数年前、札幌で講演会を行った際、山部の農家の方々に『山部でも講演してもらえないか』と声をかけられ、それから、たびたび富良野で研修会を行う機会ができた。そこから分かるように富良野の方々はとても熱心。会の世代交代もうまくいっている数少ないところ」と富良野の活動を評価します。

今後について杉村会長は、「土づくりの勉強を重ね、自分たちで、作物に適した肥料の種類・量を選択できるようにしていきたい。そして、地域全体でレベルアップしていければ」と話してくれました。安全安心を唱える富良野農業の土台を着実に固めています。